

第 26 回北九州市迷惑行為防止推進協議会 議事録

■日 時 : 平成 31 年 2 月 20 日 (水) 14:00～15:20

■場 所 : 北九州市役所 3 階 特別会議室 B

■出席委員 : 8 名 (敬称略)

会 長 : 大坪

副会長 : 加藤

委 員 : 大河内、小嶋、清水、堀田、諸隈、山口

■全体進行 : 安全・安心都市整備課長

■内 容 :

1 開 会

- ・委員、出席者紹介
- ・開会挨拶 (梶原安全・安心担当理事)

2 議 事

- ・第 3 次計画 (素案) 作成に関する審議

※内容は以下、審議記録のとおり

審議記録（要旨）

質疑応答及び意見交換

【会長】

○平成32年度は、次期の第3次計画の素案づくりを当協議会で行っていく予定。本日は質疑応答等を行い、委員の皆さんに内容についてある程度ご理解いただき、持ち帰って課題等を整理したうえで、次回の協議会において素案の内容を詰めていきたい。

【委員意見】

○モラル・マナーに関する主な取り組みとして、「連携」が謳われているが、市が連携を行っている取り組みはどのようなものか。

【事務局】当協議会における議論を、各担当部署に情報提供し、課題等を共有している。

【会長】事業ごとに、市の各部署がそれぞれ連携している事例はたくさんあると思う。例えば道德教育における市民文化スポーツ局と教育委員会の連携等。迷惑行為の防止には、市役所の広範な部署が携わっている。それぞれで取り組みを行っており、連携を含めたそれらの全体的な方向性についてのご意見なども、この協議会の中でいただきたい。

【委員意見】

○数値目標を定めることができる分については定めてはどうか。例えば、同じような規模の都市の数字を参考にして。

【事務局】現時点では、まだそこまで作業が追い付いていないが、第3次計画策定作業の中で審議したい。

【会長】第2次計画の期間中でも、過料の適用状況の数字等の報告があった。その際の印象では指標の数が多く、また、他の要因で数字が変わる場合もあると感じたので、絞り込んでどうか。

【委員意見】

○健康増進法が改正されたが、屋外は全面禁煙なのか。そうであれば、今後どのような取り組みを行っていくのか。

また、SDGsを絡めて事業者と連携してはどうか。

【事務局】過料が適用される小倉都心と黒崎副都心地区の重点地区を除く市内一円は、路上喫煙しないよう努力義務が課されている。

今後の取り組みについては、夜の巡視が難しいなか、啓発・周知が中心になってくると考えており、受動喫煙担当の保健福祉局と連携しながら、飲食店等への周知を行い、路上喫煙を減らすようにしたいが、効果的な方法については難しい問題。

【委員意見】

飲食店に喫煙スペースをつくってくださいということではなく、建物内で吸わせないことが主眼だと思う。そこで、ただ「吸うのはダメ」と言うことだけではうまくいかないの、吸える場所をつくるとか、ビル業者との連携とか、違う方法をとるのも現実的ではないか。

【委員意見】

○計画の中で「市民意識の醸成」と「ボランティア活動の活発化」があるが、その前のステップで、地元への愛着心のようなものを育てる施策が必要ではないか。

【事務局】 地元への愛着心も非常に重要なことだと認識している。地元団体で、ごみのポイ捨てや路上喫煙といった迷惑行為を対象として活動していただく団体を常に募集しており、現在、96 団体ほどが地元で活動していただいている。

【委員意見】

○たとえば小倉地区では、街中に自転車の外国人の方が多い。結構スピードを出して危ないことがある。インバウンドもあるが、学生も増えてくる。外国人学生が通う各種学校等と連携して、マナーを周知するなどの取組みも必要だと考える。

【事務局】 県警では、県内で外国人の労働者や学生が通う企業や各種学校等と連携し、自転車も含めた交通安全教育を実施している。
また本市でも、交通公園で自転車シミュレーターなども活用した交通安全教育を行っており、関係団体と連携しながら、自転車の安全利用に関する周知・啓発を行っていききたい。

【委員意見】

○計画の中では抽象的な表現が多く具体的な表現が少ないため、具体策が分かりにくい。
たとえばボランティアを行っている団体や個人を表彰するなどスポットライトがあたるようにするなど、切り口を変えたものが必要ではないか。
また市の他部局の担当者の意見も聞いて連携できればよいと思う。

【会長まとめ】

当協議会にずっと関わってきている人でも、全体像がぼんやりと分かりにくくなってきた面もあるので、どこかでスイッチを入れ直すことも必要かもしれない。

また市民ボランティアの方たちの役割も大事である。今までも、そういう活動を一般の方が知るための機会はあったが、十分ではなかったかもしれない。

それらも踏まえてさきほどのご意見でもあった地元への愛着心の醸成を図り、そのために心地よいまちづくりや環境整備に取り組みませんかといったメッセージを市民に伝えることも考えたいので、今後も委員の皆さんのお知恵をお借りしたい。